

## 特別講演 2

### 「新しい糖尿病治療戦略

### ～CGM と SGLT2 阻害薬の可能性を含めて～」

東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科

ピッツバーグ大学公衆衛生大学院 准教授

西村 理明 先生

糖尿病診療における、血糖コントロール指標の代表は HbA1c 値である。しかし、HbA1c はあくまでも、長期にわたる平均血糖値を反映する指標である。

日々の血糖変動を見る手段として、血糖自己測定や食後の血糖測定が普及してきた。しかし、これらだけでは血糖変動の全容を捉えることは難しい。2010 年から、連続して血糖変動を把握することができる持続血糖モニター（Continuous Glucose Monitoring : CGM）が我が国でも使用可能となった。

HbA1c を下げるだけでは、生命予後が改善しないことが最近の大規模臨床試験で示されている。HbA1c を下げるだけでなく、いかに低血糖を起こさず、血糖変動を正常化させるかが重要なのではないかと個人的には考えている。

今後は、低血糖を起こしにくく、血糖変動幅を狭めることを可能とする薬剤である DPP-4 阻害薬、ビッグアニド薬、チアゾリジン薬、 $\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬、SGLT2 阻害薬等の組み合わせが、糖尿病治療の中心となって行くであろう。